

女性・子どもの防災について

子どもを持つ親にとって心配なのは、まず、子どもの体調と健康状態だと思います。東日本大震災後、避難所で過ごした家族の中には、食物アレルギーを持つ子どももいて、配給されたものが食べられなかったそうですが、「避難所でアレルギー対応を求めるなんて、わがままと思われるのではないか。」と遠慮していたという話がありました。

食物アレルギーは命に関わる大切なことです。避難所で対応できないことも想定して、少量でもいいのでアレルギー対応の非常食を備えておくと思えます。

女性の防災として考えておきたいのは、“防犯”です。東日本大震災女性ネットワークが、災害時の女性と子どもに対する暴力調査を行った結果、DV、性暴力、子どもへの暴力(性被害含む)などが発生していたそうです。

停電中の夜は、避難所、仮設住宅の付近や道路は街灯や防犯灯も点いておらず真っ暗です。また、避難所に設置されているトイレも離れた場所にあるため注意と対策が必要です。

悲しいことですが、女性たちは必要な物資の不足や女性への配慮の欠けた避難所運営、性暴力被害の発生など、災害が発生するたびに、被災した女性たちは、さまざまな困難を抱えて

います。

今後の災害にそなえ考えるとき、男性のことをよくわかっているのは男性であるのと同じように、女性のことを一番よくわかっているのは女性です。「男性がイメージした視点」ではなく、「女性自身による女性の視点」で女性と子どもの防災について考え取り組んでいくことが重要です。

